千秀だより

横浜市立千秀小学校

８・９月号

平成３０年（２０１８）８月２７日

田の水をぬく

校長　市川　幸男

今年の夏は前半が非常な猛暑で、時には熱中症への配慮から、休み中の水泳教室を中止にすることもありました。それでも後半になると、さすがの暑さも和らぎ、栗が大きく実るなど秋の到来も感じられるようになってきました。夏休みが終わり、子どもたちが学校に戻って参りました。久しぶりの友達とのふれあいに、笑顔がはじけ、夏の思い出を語る子どもたちの表情に、多くの体験を通して得た自信のようなものが感じ取れました。それぞれに良い夏休みを過ごしてきたのだと思い、それを支えた保護者や地域の方のご努力に感謝致します。

さて、８月の初旬の頃でしたが、時には歩いてみようかと学校から大船駅に向け歩き始めました。田谷のバス亭を過ぎたところで、高速道路の工事と緑の水田が一面に視界に入ってきました。田んぼの青々とした葉が、吹き抜ける風にそよぎ、波のように伝わっていく景色は、暑さを忘れさせるほど美しいものでした。茎や根元に目を向けると、一本一本が太くしっかりとしています。そのときふと疑問に思ったことですが、田んぼに水が張られていませんでした。厳しい暑さに水が干上がってしまったのかなと思いましたが、後で調べてみると、それは稲のためを思い、意図的に水を抜いているということが分かりました。これから穂を出し、たわわに実る稲穂を支えるためには、今、稲の根をしっかりと育てていかなくてはいけない。水を控えることによって、稲は多くの水分をとるために自分で根を広げて、しっかりとした土台を作っていくのです。私は自らの無知を恥ずかしく思うとともに、これは学校教育も同じだなとも思いました。

ともすると私たちは子どもたちのためと思い、あれもこれもと、子どもたちが困らないように準備したり、子どもたちの欲求を全面的に援助し達成すべくしたりしまいがちです。もちろんそれは、学習の効率や内容を高めていくことにとって必要不可欠なことでもあります。でもいつも敷かれたレールばかりでは、子どもたちの資質・能力の成長にとって問題が残ります。時には、子どもたち自身が自ら工夫してレールを敷き、解決に向け努力を重ねていくことも大切だと思います。子どもたちにとって、幾度も失敗しながらも工夫し、分かったことやできるようになったことは、この上ない喜びとなるのではないでしょうか。そしてそれは新指導要領等で示された、これからの子どもたちに必要な資質の「生きる力＝主体的で対話的な深い学びの姿」につながるのではと存じます。古くから伝わる米作りの知恵に倣い、学校でも、子どもたちが努力することで解決できる課題を意図的に設定し、それを乗り越える経験を大切にした授業の提供を、進めていきたいと思います。そしてその取り組みは学校ばかりでなく、家庭でもご協力いただければと思います。夏休み中の地域周りから、そんなことを考え、勉強をさせていただきました。

その後、稲はすくすくと伸び、現在は立派な稲穂をつけ花が開いているところです。これから秋が深まるまでの間に、豊かな黄金色の田んぼとなってくれると思います。年度の折り返し点としての９月、児童の振り返りとともに、私たちも指導の在り方を振り返り、より良い教育の実践を進めて参りたいと存じます。ご協力よろしくお願い致します。